晴れやかな顔で巣立ち

丹波地域　高校で卒業式

篠山産業高校の卒業式が2月25日、同校で行われ、134人が学び舎を巣立った。氷上西（卒業生数36人）、氷上（同85人）、篠山鳳鳴（同144人）、柏原（同234人）は28日、篠山東雲（同23人）は1日に行われた＝**3面に関連記事**。

篠山産業の卒業式は、新型コロナ感染対策で保護者のほか、在校生は2年生（136人）のみ出席。卒業生のみ、入退場の際のマスク着用は「本人の判断」とした。マスクを外し、晴れやかな表情を見せて入退場する卒業生の姿が多く見られた。

卒業証書をクラス代表に手渡した大久保隆校長は、コロナ禍で行動が制限された3年間を振り返り、「常に真摯に、前向きに学校生活に取り組み、『産高に3年生あり』を印象付けてくれた。日頃の精進のたまものであり、成長した証し」とたたえた。その上で、「人との出会い、つながりを大切にしながら誠実に生きる」「社会の動きに関心を持って、ほんの少し高い目標を設定する」の2つの言葉を贈り、「つらいこと、苦しいことにも立ち向かってほしい」と激励した。

在校生を代表し、　さん（2年、篠山中出身）が送辞を述べ、これを受け、卒業生の　さん（篠山東中出身）が、「仲間、先生、後輩に恵まれ、大きく成長できた。産高を卒業できることを誇りに思う」と時折、涙で言葉を詰まらせながら答辞を述べた。

マスクを外し、晴れやかな表情で卒業式会場を後にする篠山産業高校の卒業生たち＝丹波篠山市郡家で

2023年3月2日
丹波新聞